

## 【企画 サンプル】

青色塗りつぶし：事前に指定した内容

オレンジ塗りつぶし：企画者が設定した企画内容

※下記の内容を Excel にてご納品いたします

### ■記事設定の企画

文字数	5000 文字
メインキーワード	交通事故 示談
関連ワード	交通事故 示談 しない 交通事故 示談 できない 交通事故 示談 とは 交通事故 示談 解決 交通事故 示談 計算 交通事故 示談 後遺障害 交通事故 示談 交渉 交通事故 示談 支払い 交通事故 示談 成立 交通事故 示談 請求 交通事故 示談 相手 交通事故 示談 必要 交通事故 示談 保険 交通事故 示談 保険会社 加害者 交通事故 示談 保険会社 交渉 交通事故 示談 保険会社 弁護士 交通事故 示談 無料 交通事故 示談 有利 交通事故 示談 流れ 示談金 交通事故
想定読者	交通事故に巻き込まれた人（被害者・加害者）で、示談する状況にある人
記事のゴール（記事を読んだ後の読者の状態）	示談の流れや手続きを理解し、損・不利益を被らないために、〇〇法律事務所への相談を検討している状態。

■段落・見出し構成の企画

段落構成	タイトル・見出し	導入文・見出しごとの指示（執筆内容）
記事タイトル・導入文	交通事故の示談交渉を徹底解説！示談金交渉で損しないためのポイントとは	交通事故を起こしたり巻き込まれたりすると、避けては通れないのが示談。示談の内容次第で支払い・受け取りの金額が決まるため、適切な対処法を知らないと損してしまうリスクがあると注意喚起をする。本記事では、示談とは何か、誰がいつから交渉するのかなど、示談の知識を説明しつつ、損しないための対処法を紹介すると説明。この記事を読むことで、事故に遭っても示談で損をしないための対処法が学べることをアピールする。
1 段落	交通事故の示談とは？示談交渉の基礎知識	<p>そもそも示談とは何か、下記を踏まえて説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加害者と被害者の間で、事故で発生した損害の支払い金額を決めるための交渉・手続きのこと（怪我や入院、車の破損、休業による損失、志望の場合は葬儀など）</li> <li>・法律的には和解契約と呼ばれるもので、双方の合意がないと成立しない</li> <li>・一度取り決めたらやり直しがきかない</li> <li>・示談で合意に至らない場合、裁判になる</li> </ul> <p><a href="https://xn--u8jvc1drby660ajea95wk08b0s0b5qybrha279c.com/">https://xn--u8jvc1drby660ajea95wk08b0s0b5qybrha279c.com/</a></p>
1-1	示談交渉の相手は誰？	<p>示談交渉は誰と誰が行うのかについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・任意保険に加入する人が多い昨今では、保険会社同士の交渉が多い</li> <li>・加害者側は加害者が加入する保険会社に依頼するケースが大半</li> <li>・被害者側は加入している任意保険会社に依頼したり、保険が使えない場合などは弁護士に依頼するケースが多い</li> </ul> <p>※特に被害者側は百戦錬磨の保険会社の示談担当者が相手になるため、個人で対応するのではなく強いサポートがあったほうが良いことに触れる</p>
1-2	示談はいつから行うの？	<p>示談を「いつまでに始めなければならない」というものはないが、「示談金額を決められるタイミング」から示談交渉を始めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・死亡事故：葬儀までで損失や費用が確定するため葬儀後に開始可能※ただし遺族の心情考慮も必要なのでタイミングは注意</li> <li>・人身事故：治療が完了した、「症状固定」がされたタイミング（入院や通院が生じるので長期化する傾向あり）※症状固定について説明する</li> <li>・物損事故：損害額が決まったタイミング（事故後1ヵ月以内）</li> </ul>
2 段落	交通事故の示談金の内訳と決まり方	示談金の定義と、どのように決まるのかを説明する段落であることを紹介。（1文程度、簡潔に）

2-1	示談金の計算と過失割合	<p>示談金とは、「慰謝料」と同じものと思っている人もいるかもしれないが、といたうで下記を説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・示談交渉で合意された金額のこと</li> <li>・慰謝料は示談金の一部であり、「精神的苦痛」に対して支払われるもの。</li> <li>・示談金は「合意に至った金額」なので相場はない</li> <li>・交通事故は加害者が100%悪い「0：100」のケースを除き、「過失割合」を元に「過失相殺」された金額が支払われる</li> </ul>
2-2	示談金の内訳	<p>「示談金」を構成する様々な費用について、下記を踏まえて解説。それぞれどのようなものが該当するか、主なものの説明と共に開設する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財産的損害 ※積極損害と消極損害がある</li> <li>・精神的損害 ※慰謝料として支払われる</li> </ul> <p><a href="http://www.koutuujikobengo.jp/zaisantekisongai/">http://www.koutuujikobengo.jp/zaisantekisongai/</a>  <a href="https://xn--3kq2bv77bbkgiviey3dq1g.com/jidankin_souba-2/">https://xn--3kq2bv77bbkgiviey3dq1g.com/jidankin_souba-2/</a></p>
2-3	慰謝料を決める3つの基準	<p>下記を踏まえて慰謝料が決まる基準について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・賠償基準：法令で決められた最低限の補償を行うことを目的とした基準。</li> <li>・任意保険基準：自動車保険会社が独自に設けている基準。自賠償基準よりも多くの保障が受けられる。</li> <li>・弁護士基準（裁判所基準）：裁判所の判例などを参考にした基準。自賠償基準や任意保険基準よりも高額な慰謝料が設定されることが多い。</li> </ul>
3段落	示談交渉の流れと手続き	<p>事故発生から示談成立までの流れを解説する段落であることを説明。（簡潔に）</p>
3-1	1：事故発生	<p>事故直後の対応について下記を踏まえて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故が起きたら、まず警察に連絡する</li> <li>・加害者、被害者ともに「過失割合」が重要になるケースがあるため、任意保険に加入している場合は保険会社へ連絡</li> </ul> <p>※怪我や違和感がある場合は「人身事故」として処理されているか後日「交通事故証明書」で確認すること</p> <p>※物損事故で処理されていても、後日診断書をもって警察署へ行くことで人身事故に切り替えてもらえる</p>

3-2	2：損害確定	<p>事故後～示談交渉までに行われることを下記を踏まえて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故発生から示談交渉までの間に、入院や通院、死亡の場合は葬儀など、損害を確定するための重要な出来事がある</li> <li>・外傷に限らず少しでも違和感がある場合は医師の診断を仰ぐこと</li> <li>・治療が長期化する場合、相手方の保険会社から「治療費の打ち切り」や「症状固定」を打診されるが、治療費の軽減を目的に行われ「症状固定」をした場合はそれ以降の費用を請求できないこともあるため、慎重に対応し無理に応じる必要はない。</li> <li>・後遺障害が残った場合は「後遺障害の等級認定」を受ける</li> <li>・お互いに過失がある場合、事故直後から保険会社を通じて「過失割合」の調整が発生する</li> </ul> <p><a href="https://www.ko2jiko.com/flow/">https://www.ko2jiko.com/flow/</a></p>
3-3	3：示談交渉	<p>示談交渉について下記を踏まえて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・治療費、入院費、後遺障害等級の認定などを元に示談交渉が行われる</li> <li>・示談は一度決定したらやり直しがきかない</li> <li>・スムーズにいかない点として多いのが過失割合。</li> <li>・示談金の慰謝料の基準は、弁護士基準が最も高額になるケースが多いので弁護士に相談するのも一つの手</li> </ul>
3-4	4：合意（示談成立）	<p>双方が合意することで示談が成立する。保険会社の場合、相手側の保険会社から免責証書（示談書）という書類が送付され捺印・返送すると成立（1～2週間程度で口座に示談金が振り込まれる）することについて触れる。</p>
4段落	示談で不利にならない・スムーズな解決のために押さえておきたいポイント	<p>交通事故の示談は注意しないと不利になるため、本段落で紹介することを押さえておくべきと紹介。（簡潔に）</p>
4-1	1：示談交渉は急がないこと	<p>示談交渉は急がないこと。特に治療中の場合、治療が終わったタイミングで始めても遅くない。後日症状が出たときには示談が終わっていた、とならないように完治してからがベスト。</p>
4-2	2：保険会社の言いなりにならないこと	<p>保険会社は慣れている分、スムーズに進めてくれるが、被害者側は相手方の保険会社の言いなりにならないように注意。示談や、治療状況や症状確定を急がされることもあるので注意すること。特に示談金の内容や金額、元となる過失割合などは入念にチェックし、少しでも納得がいかない場合は保留にして弁護士に相談するなどが良い。</p>
4-3	3：状況はしっかりと伝えること	<p>何事もきちんと状況を抜け漏れなく伝える必要があることを下記を踏まえて説明。</p> <p>身体的なこと：医者や保険会社には、自分の身体がどのような状態か、少しでも違和感があるならすべて伝えること</p> <p>事故状況：過失割合に関するため、保険会社・警察など関わる相手</p>

		には可能な限り正確に伝えること。ドライブレコーダーがある場合は提出すること。
5 段落	示談交渉は弁護士へ相談すると有利に	交渉事になるため、専門家へ依頼するのがよい。 特に被害者側はいきなり保険会社を相手にすることもあるため、少しでも不安がある場合は弁護士へ相談するのが良い（無料相談ができる事務所もある）。依頼する場合は、交通事故が得意・専門の弁護士へ依頼すること。
5-1	弁護士へ相談するメリットとデメリット	下記について触れながらメリット、デメリットについて説明 ・メリット 示談金額が増額できるケースが多い 的確なアドバイスが受けられる 心理的な負担が軽減する  ・デメリット 物損事故、軽度の人身事故の場合、依頼費用のほうが示談金額よりも高くなるケースがある
5-2	弁護士費用の相場	事務所により異なるが、下記が目安。それぞれどのようなものか、いつ発生するかを説明する。相談料や着手金は無料としている事務所も多くあることに触れる。  相談料：無料または 5000 円～10,000 円/30 分～1 時間 示談交渉： 着手金 10 万円～20 万円（無料の事務所もあり） 報酬金：15～20 万円+回収額の 10%
6 段落	示談交渉の秘訣は損害が大きいほど弁護士へ依頼するのがオススメ	改めて、被害者ほど保険会社というプロを相手にするため、弁護士などのサポートを受けるほうが良いこと、小さいものは短期で片付けるのが良いが、弁護士を通すことで示談金の金額を増やすことができるので、重大なものほど弁護士を通したほうが良いことを伝える。 最後に〇〇法律事務所へ誘導する流れでまとめる。 その際、相談や示談金診断は無料なこと、交通事故案件の経験豊富な弁護士がいることを訴求する。